ひだまり

ISO9001:2015 認証機関
日本認知症ケア学会認定施設
岡山ひだまりの里病院　広報紙
第１３８号
２０２６年１１月発行
発行責任者　藤田文博







平和の願いを風船にのせて「ピースバルーン」開催



９月９日、当院では憲法９条にちなんで平和を願うイベント「ピースバルーン」を開催しました。

医療従事者として、また一人の人間として、個人の人権が脅かされる「戦争」という歴史を二度と繰り返さないために、患者さんから戦争体験や平和への思いに耳を傾け、命の尊さと平和の大切さを考える場として、毎年継続して取り組んでいます。

患者さんのＡさんより、小学校２年生の頃に体験された空襲や父親の戦死、そしてその後の人生についてお聞きしました。この日に向けてＡさんはつらい体験に向き合い「戦争を知らない世代にどうすれば伝わるか」と試行錯誤しながら原稿を準備してくださいました。幼心に感じた得体のしれない怖さ、防空壕の中から聞こえる飛行機の音、我が子を守ろうとする母の声、父親の死を知った時の母の絶望、そして終戦を迎えても続いた過酷な日々。Ａさんの体験を通し、戦争を知らない人もその恐ろしさを身近に感じました。最後に「戦争は『駄目』の一言。もう聞きたくない。経験者として伝えていきたい」と語られると、同じ時代を生きて来られた患者さんからも「その通りです！」「わかるよ、わかる！」と共感の声が上がりました。

また、入院されているＢさんが書かれた、平和への願いの詩も朗読されました。

「人々は戦争反対を訴える一方で、戦争の裏には社会の発展がある。その矛盾の中で生きている。それでも戦争は反対と叫び続けなければいけない。人間として！」それは、現在を生きる私たちへ投げかけられたメッセージでした。

最後にＡさんのピアノ伴奏で「ふるさと」を合唱。会場の心が一つになり、平和への願いを書いた風船を空へ放ちました。

私たちはこれからもこの思いをしっかりと受け止め、「戦争をしない！　させない！」という気持ちと、平和について何ができるのか考え続けていきます。

作業療法士　三浦 麻衣子

地域とつながり、自分らしく輝く「サポくまフェスティバル」参加レポート

『新しい認知症観』をともに体現

今年のサポくまフェスティバルは、『あたらしい認知症観（※）』を来場者に体験してもらうことを目的として、ブースの運営をしました。何度か重ねた企画会議の段階から、認知症の診断を既に受けている人もまだ受けていない人も、垣根なく、意見やアイデアを出し合いながら迎えた当日。

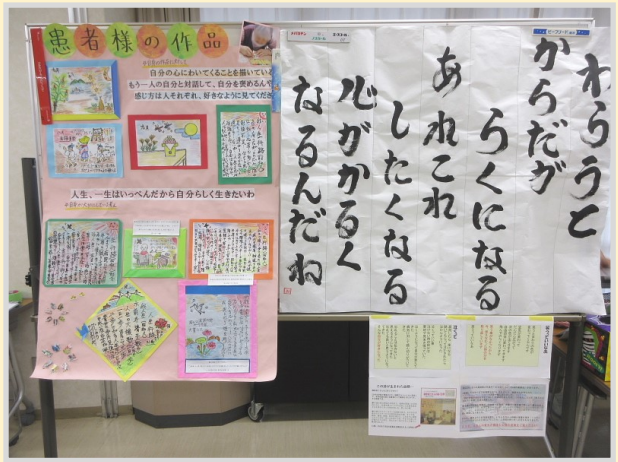
私たちのブースでは、喫茶、高齢者疑似体験、バルーンアート、野菜販売、VR体験、患者さんたちの展示などなど、盛りだくさんではありましたが、当事者とともに和気あいあいと訪れたみなさんを迎え、一緒にひとときを楽しみました。何よりも印象的だったのは、当事者のみなさんが、積極的に役割を担い、いつも以上にいきいきとした目でおもてなしをされる姿でした。これからも一人一人の持っている力が輝く瞬間を大切にした取り組みをしていきたいと思います。

相談員　加嶋 夏代

※ あたらしい認知症観とは・・・

『認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる』という考え方。





入院患者さんの、いきいきとした姿

相談室の今年度の目標にひとつに、「入院中の患者様が希望する取り組みや活動を行うこと」があります。

小雨が降る9月26日、入院患者さん4名と「サポくまフェスティバル」に参加してきました。事前にどの催しに参加するかを皆さんで話し合い、当日に臨みました。参加した子どもたちと笑顔でハイタッチしたり、認知症カフェでお互いに声を掛けあいながら注文を取り合ったり、カメラが向けばチャーミングなポーズを取ったりと、いきいきと和やかに楽しまれている姿が印象的でした。

地域とのつながりを持っていただくことの大切さに改めて実感しました。

相談員　日髙 衛

【4階病棟】長寿を祝う「敬老会」を開催



敬老の日よりやや早目の9月8日、4階病棟では「いつまでも元気でいてください」の願いを込め、「敬老会」を開催しました。

節目の年を迎えられた患者さんにはちゃんちゃんこと帽子を身につけていただきました。開催あいさつは宮原師長が行い、その流れのまま古希、米寿、卒寿、白寿を迎えられた5名の患者さんへ表彰状が贈呈されました。恥ずかしがりで最初は嫌がっていた患者さんも、受け取るときには嬉しそうな表情に変わられ、会場からは温かい拍手が送られました。

お祝いに関連したクイズや主賓への質問では、マイクを向けられた時の患者さんの反応がとても良く、みなさん照れながらも素敵な笑顔と返答。会場はにぎやかで和やかな雰囲気に包まれました。調理師さんがこの日のために作ってくれた『小豆ミルクプリン』も大好評でした。



最後に患者さんから終わりの挨拶をしていただきました。とても落ち着いた重みのあるスピーチをしてくださり、普段とは違う一面を拝見することできました。患者さんも職員も楽しめた敬老会となりました。

介護福祉士　江本 克志

【3階病棟】「晩夏の夕涼み会」手持ち花火に思い出を重ねて



まだ暑さの残る8月末日、3階病棟では10名の患者さんが病院玄関に降りてきて、日が沈むひと時、手持ち花火で楽しみました。夕暮れの雰囲気に少し不安そうな患者さんも、時間が経つと表情は緩み、みんなと一緒に花火を楽しんで居られました。花火をしながら、みなさんの花火に関する思い出も聞かせていただきました。地元の花火大会や家族との花火の思い出、そしてみなさんの共通の思い出に「線香花火」がありました。

この「夕涼み会」は、病棟から見えた打ち上げ花火に感動している患者さんの姿を見て、職員が発案したものです。一人ひとりが思い出す花火の情景に、その人が歩んできた人生の歴史を感じました。

今後も患者さん一人ひとりに寄り添う企画を届けてまいります。

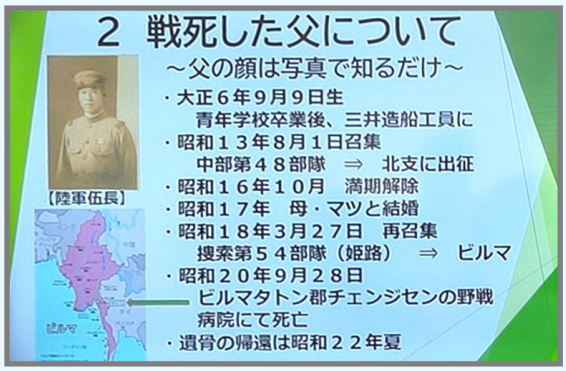
介護福祉士　妹尾 恵助

人生の歩みに耳を傾けるケアを
8月、全体平和学習会より

当院では毎年8月に行う全体学習会は、「平和学習会」になります。今年は岡山遺族連盟・灘崎遺族連合会会長の近藤嘉也さんをお招きし、戦争遺児として歩んでこられた人生についてお話しいただきました。

近藤さんは2歳半の時、お父様をビルマ（現ミャンマー）で亡くされました。戦地から届いた葉書には、家族を案じるお父様の言葉が記されていたそうです。また、岡山空襲で空が真っ赤に染まる様子や、戦後の貧しい時代をたくましく生きた子どもたちの姿も語ってくださいました。





その人生を支えたのは、片親のハンディを感じさせないよう懸命に働き、育ててくれたお母様の存在でした。「母の終戦は死ぬまで。私の為に働いていた」という言葉が深く心に残りました。

今回のお話を通じ、戦争という歴史の中にも一人ひとりの人生と、それぞれの思いがあることを改めて感じました。認知症医療においても、目の前の症状だけでなく、その方が歩んできた人生を知り、思いに耳を傾けることが大切です。今回の学びを、患者さん一人ひとりの尊厳を大切にする日々のケアにつなげていきます。

事務長　黒瀬 健弘

お知らせ

当院では現在、郡（こおり）と飽浦の2か所で定期的に認知症カフェを行っています。

『こおり銀座』

- 毎月第4月曜日14～16時
- 予定日：11月30日、12月28日、2027年1月25日
- お問い合わせ先：

☎ 086-267-2011（担当：加嶋）
☎ 086-272-2957（担当：頭師）



『ひだまりの家(カ)フェ』

- 毎月第4水曜日15～17時
- 予定日：11月25日、12月23日、2027年1月27日
- お問い合わせ先：

☎ 086-267-9377(グループホーム ひだまりの家)



※どちらも予約は不要です。場所や内容などお気軽にお問い合わせください。

ごあんない

岡山ひだまりの里病院
〒702-8012
岡山市南区北浦８２２－２
☎ 086-267-2011　FAX　086-267-2013
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ https://hidamari.hayashi-dorin.or.jp/

≪外来≫
診療日時：月曜～金曜
9：00～12：30
＊予約制です。まずはお電話でご予約下さい

≪認知症デイケア≫
実施時間：月曜～土曜
9：30～15：30
（日曜・年末年始はお休み）

相談員、看護師、作業療法士による訪問看護を行っています。詳しくはお電話下さい。

無料低額診療事業を実施しています。
医療費でお困りの方はご相談ください。
入院中の差額ベッド料はいただいておりません。